

2022年度
大学院医学系研究科修士課程

履 修 要 項



国立大学法人

滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

目 次

- ・ 大学院医学系研究科修士課程学年暦
- ・ 滋賀医科大学の理念・使命
- ・ 大学院医学系研究科修士課程教育目標
- ・ 大学院医学系研究科修士課程の三つのポリシー（方針）
- ・ 大学院医学系研究科修士課程の概要
- ・ カリキュラムツリー及び授業科目ナンバリング
- ・ 履修要項
- ・ 授業科目及び単位数表
- ・ 教員の主な研究内容等
- ・ 授業科目の概要
- ・ 修士課程研究指導の方法及び内容
- ・ 研究指導計画書（見本）
- ・ 大学院医学系研究科（修士課程）における在学期間の特例に関する申合せ

令和4年度 大学院医学系研究科修士課程 学年暦

行 事	日 程
前期（4月1日（金）～ 9月30日（金））	
学年開始	4月 1日（金）
入学宣誓式・新入生履修指導（春季）	4月 5日（火）
前期授業期間	4月 8日（金）～ 7月29日（金）
補講期間	8月 1日（月）～ 8月 8日（月）
夏季休業	8月 9日（火）～ 9月30日（金）
学位論文研究発表会（第1回）・研究デザイン発表会	8月30日（火）～8月31日（水）
学位授与式（秋季）	10月 3日（月）
後期（10月 1日（土）～ 3月31日（金））	
入学宣誓式・新入生履修指導（秋季）	10月 3日（月）
後期授業期間（前半）	10月 3日（月）～ 12月19日（月）
冬季休業	12月20日（火）～ 1月 3日（火）
後期授業期間（後半）	1月 4日（水）～ 2月14日（火）
学位論文研究発表会（第2回）・研究デザイン発表会	1月31日（火）～ 2月 1日（水）
春季休業	2月15日（水）～ 3月31日（金）
学位授与式（春季）	3月10日（金）
学年終了	3月31日（金）

【備考】

- 1) 定期健康診断の日程は、別途通知する。
- 2) 10月29日（金）は、学園祭（若鮎祭）の開催にともない休講とする。
- 3) その他、学年暦に変更があった場合は、その都度通知する。

滋賀医科大学の理念・使命

Philosophy, Goal and Mission of Shiga University of Medical Science

理念

Our Philosophy

地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学として、医学・看護学の発展と人類の健康増進に寄与する。

As the university which is supported by its local community, contributes to the community and plays an active part in the world, we contribute to development of medical and nursing science and promotion of human health.

使命

Our Missions

大学院は、医学及び看護学の領域において、優れた研究者及び高度な知識と技術をもつ専門家を養成することを目的とし、もって、医学及び看護学の進歩と社会福祉の向上に寄与することを使命とする。
(国立大学法人滋賀医科大学大学院学則第2条より抜粋)

We strive to nurture outstanding researcher and expert with advanced knowledge and capability in medicine and nursing. Our mission is to apply advances in medicine and nursing to the betterment of welfare in our society. (Article 2 of the Regulations of Shiga University of Medical Science)

大学院医学系研究科修士課程教育目標

大学院医学系研究科修士課程看護学専攻では、本学の使命のもと、高度な知識と技術をもつ専門家を養成し、教育・研究・実践の場で高度な専門性とリーダーシップを発揮し、看護学の発展と人々の健康の向上に寄与することができる次のような能力を備えた人材育成を目指しています。

深い学識と倫理観

高度の研究能力及びその基礎となる豊かな教養と深い知性、確固たる倫理観を基盤にした人間性を涵養する。

高度な専門性とリーダーシップ

保健・医療・福祉の専門職との協働において、看護専門職としての意思決定と主体的行動が執れるとともに、さまざまな状況においてリーダーシップを発揮する能力を養う。

独創性と国際性

看護上の問題発見力・論理的思考力を発揮し、主体的かつ独創的に研究活動を推進するとともに、国際的・学際的に活躍する能力を養う。

社会への貢献

複雑で多様な人々の健康問題に柔軟に対応し、看護学の発展と人々の健康に貢献できる看護専門職を育成する。

大学院医学系研究科修士課程の三つのポリシー（方針）

課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

大学院医学系研究科修士課程においては、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、必要な単位を修得のうえ、審査及び試験に合格し、次のとおり優れた知識と能力を身につけている学生に学位（看護学専攻：修士（看護学））を授与します。

看護学の発展と人々の健康の向上に寄与するための科学的知見の生成と専門的見地から社会に顕在・潜在するニーズの発見や課題解決ができる次のような能力を備えた人材育成を目指しています。

1. 看護学における科学的思考と知的誠実さに基づき学術的妥当性を吟味した研究計画を立案し遂行することができる。
2. 研究や看護実践において人権を尊重し権利の擁護のために倫理的問題の解決に取り組むことができる。
3. 研究や看護実践における課題を見出し、専門的思考に基づき問題解決に向けて取り組む能力を有する。さらに、リーダーシップを発揮しながら多職種と協働することができる。
4. 自らの専門性と看護専門分野の知見を応用し、あらゆるライフサイクルにある看護の対象者への健康課題解決のための革新的方法の開発と知見生成を創造的かつ意欲的に取り組むことができる。
5. 専門性のある学問分野として看護学をとらえ、学術の発展に寄与することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院医学系研究科修士課程看護学専攻では、以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。論理的思考力、高度な専門性、医療人としての確固たる倫理観が持てるような教育システムを設けています。

1. 教育課程の編成の方針

外国語を含む看護研究方法論を体系的な枠組みとし、共通科目と専門科目を位置づけている。専門科目に関しては、講義と演習を組み合わせ、能動的な学修の機会を設定し、専門的知識のみならず倫理観、実践能力を養成している。

2. 教育課程における教育・学修方法に関する方針

- (1) 1専攻2コース（研究コース、高度実践コース）を設け、副指導教員体制、中間発表の機会による横断的な指導体制とする。
- (2) 共通科目と領域別科目をおき、高度な専門性と論理的思考に基づく課題発見力と問題解決能力を養う。
 - ①看護学研究者として必要な基礎的知識と研究遂行能力、研究の倫理性について、2コースの共通科目をとおして養う。
 - ②領域別科目では、各専門領域の専門的知識と研究実践能力もしくは高度実践能力を養う。
- (3) 上記に加えて、コースの特徴に合わせた科目を設ける。
 - ①研究コースでは、さまざまな研究課題に応じた最先端の研究手法や国内外の知見を教授し、看護

学の発展に寄与しうる課題に関する特別研究をとおして看護学を教授することにより、創造的かつ自立した研究遂行能力を養う。

- ②高度実践コースでは、各専門領域に特化した高度な看護実践力を身につけるため、課題研究及び演習や実習をとおして、臨床看護実践における複雑な課題に対して科学的エビデンスに基づく高度な実践力を養う。

3. 学修成果の評価の方針

学修の成果は、シラバスに記載された学修目標を、課題レポート、資料作成、プレゼンテーション、演習や実習への参加状況等で科目の特性、授業形式を踏まえて多面的な評価方法によって客観的に評価します。学位論文の審査は、透明性・厳格性を確保するために公開にて行い、知識・能力・発展性について評価します。

入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

本学の理念に基づき、深い学識と確固たる倫理観を備えかつ科学的思考に依拠して行動できる看護職の育成を目指し、教育・研究・実践の場においてリーダーシップを発揮し、活躍できることを目標としている。看護学を修める医療人として必要な学識・能力・技能を修得する素養を持ち、看護学の修得に真摯に、また熱意を持って取り組む、次のような人材を求めている。

1. 看護学の専門知識と理論・実践力を修得することに努力を惜しまない者。（主体性）
2. 社会人としての常識を持ち、社会的責任を認識している者。（社会人基礎力）
3. 看護学の探求に意欲があり、学生や教員、多様な専門職者及び地域の人々と協力して学修を進められる者。（コミュニケーション力、表現力）
4. 看護学に関する基本的な知識と教養を有し、さらに発展的思考の獲得に努力を惜しまない者。（専門職者としての基礎学力、思考力）
5. 知的好奇心を有する者。（主体性）

入学者選抜の基本方針（研究コース）

1. 各専門分野の基礎知識と思考能力を問う「専門科目」試験を実施する。
2. 科学的研究の遂行に必要な語学力を測る「外国語（英語）」の筆記試験を実施する。
3. 研究意欲や倫理観等、研究者としての資質や適性を確認する「面接」を実施する。

入学者選抜の基本方針（高度実践コース）

1. 各専門分野の基礎知識と思考能力を問う「専門科目」試験を実施する。
2. 志望する分野での研究課題等についての基礎的知識や研究意欲等を測るための「口述試験」を課す。

大学院医学系研究科修士課程の概要

教育研究上の目的

大学院医学系研究科修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、看護学における研究能力と人間性を備えた優れた研究者を育成するとともに、高度な先進的看護を支える確かな専門知識と看護技術をもつ優れた看護の専門家を養成し、併せて看護学の進歩と社会福祉の向上に寄与することができる人材の育成を目的とする。

カリキュラムの特徴

1. 2つのコース

研究コースと高度実践コースの2つのコースを設けています。研究コースは研究者の養成を目的とした3つの研究領域があり、高度実践コースは高度で先進的看護ケアサービスを支える確かな専門知識と看護技術をもつ、優れた看護ケアの専門家の養成を目的とした2つの研究領域があります。

《研究コースの各専攻領域》

【基礎看護学研究領域】基礎看護学研究領域は、看護が対象とする人間を包括的にとらえ研究することによって、あらゆる看護実践に共通する基礎理論を見出し、看護の科学性を追求することを目指した領域です。「基礎看護学Ⅰ」は、看護科学を基盤においた看護教育、看護技術を研究課題としています。「基礎看護学Ⅱ」は、人を形態と機能の側面から科学的に探求し、看護実践に応用できる新しい知見の構築を目指しています。「基礎看護学Ⅲ」は、生きることの基盤である食と栄養に関わる看護の専門性を探求する看護栄養学について研究します。

【臨床看護学研究領域】臨床看護学研究領域は、高度な看護実践の場で用いられる看護介入を体系的に研究する領域です。成人看護学、老年看護学、小児看護学、ウイメンズヘルス看護学、精神看護学等の各分野でのエビデンス構築を目指しています。

【公衆衛生看護学研究領域】公衆衛生看護学研究領域は、すべての人々にとっての健康、安心や安全を整えること、健康格差の縮小、超高齢社会における地域包括ケア、健康的なコミュニティづくりなど、保健医療サービスのあり方や質の向上に寄与する知見や実践を探求する領域です。公衆衛生看護学、在宅看護学の分野でのエビデンス構築を目指しています。

《高度実践コースの各専攻領域》

【看護管理領域】（看護管理実践部門）看護管理領域は、保健医療福祉を取り巻く環境の変化に対応できる幅広い知識をもち、看護管理能力やリーダーシップ能力、看護職の指導的能力及び倫理観を備えた看護管理実践者を育成し、質の高い組織的看護サービスの発展に寄与することを目指す領域です。

【特定行為領域】（特定行為実践部門および周麻酔期看護実践部門）特定行為領域は、看護の様々な実践領域での特定行為を担い得る卓越した知識と技術を有する高度実践看護師を育成し、その役割モデルを示すことで、実践領域における看護の専門性向上と臨床看護の発展に寄与することを目指す領域です。

2. 自由に選択できる多様な授業科目

各自の研究テーマに合わせて、全領域の共通分野の授業科目と各研究領域の講義科目より、研究領域を越えて自由に選択することができます。

3. きめ細やかな研究指導

修士論文の作成に関連して、専攻の領域を越えたきめ細やかな指導が受けられるように配慮し、中間発表の場を設けています。

4. 教育方法の特例

大学院設置基準第14条「教育方法の特例」*を適用し、有職者が離職することなく修学し、教育・研究指導を受けることが可能になるよう、昼間だけでなく夜間その他特定の時間又は時期に講義・研究指導を行うように配慮しています。

5. 長期履修制度の導入

職業を有している等の事情により、修業年限（2年）を超えて一定の期間（3年）にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを願い出たときは、審査によりこれを認めることができる制度を設けおり、入学時又は第1学年在学時の定められた時期に願い出ることができます

*大学院設置基準第14条

「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時期又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」

修士課程カリキュラムツリー

2	学位論文（修士）		
	看護学特別研究		
	専門科目		
	基礎看護学領域 基礎看護学Ⅰ 演習B 基礎看護学Ⅱ 演習B	臨床看護学領域 臨床病態管理学演習B NCD看護学演習B 小児看護学 演習B 老年看護学演習B 周産期看護学演習 精神看護学 演習B	公衆衛生看護学領域 地域看護学Ⅰ 演習B 地域看護学Ⅱ 演習B
1	研究デザイン発表会		
	専門科目		
	基礎看護学領域 基礎看護学Ⅰ 特論,演習A 基礎看護学Ⅱ 特論,演習A	臨床看護学領域 臨床病態管理学 特論,演習A NCD看護学 特論,演習A 小児看護学 特論,演習A 老年看護学特論、演習A ウイメンズヘルス看護学 特論,演習 精神看護学 特論,演習A	公衆衛生看護学領域 地域看護学Ⅰ 特論,演習A 地域看護学Ⅱ 特論,演習A
	共通科目特定行為選択科目		
	疾病予防学、フィジカルアセスメント、疾病・臨床病態概論、 臨床推論Ⅰ、臨床推論Ⅱ、特定行為実践論、 特定行為実践演習、診療看護実践論		
	共通科目全領域選択科目		
	外国語文献レビュー、看護理論、看護倫理、看護管理学、 コンサルテーション論、看護教育学、看護政策論、 臨床解剖生理学、臨床薬理学、臨床診断学、看護学課題実習		
	共通科目全領域選択必修科目		
	看護学研究方法論Ⅱ 看護学研究方法論Ⅲ		
	共通科目全領域必修科目		
看護学研究方法論Ⅰ 看護学研究方法論Ⅳ 看護学研究方法論Ⅴ			
研究コース			

修士課程カリキュラムツリー

2	学位論文（修士）			
	看護実践課題研究（看護管理実践）	看護管理課題研究（特定行為実践）		
		共通科目特定行為 選択科目		
		疾病予防学、フィジカルアセスメント、疾病・臨床病態概論、臨床推論Ⅰ、臨床推論Ⅱ、特定行為実践論、特定行為実践演習、診療看護実践論		
		共通科目全領域 選択科目		
	看護学研究方法論Ⅳ、看護学研究方法論Ⅴ、外国語文献レビュー、看護教育学、看護政策論、臨床解剖生理学、臨床薬理学、臨床診断学			
	共通科目全領域 選択必修科目			
	看護学研究方法論Ⅱ 看護学研究方法論Ⅲ			
	看護管理領域 必修科目	共通科目全領域 必修科目		
	看護管理演習Ⅱ 看護実践実習（看護管理実践）	看護学研究方法論Ⅰ		
1	研究デザイン発表会			
	共通科目全領域 選択科目	特定行為領域専門科目 選択科目		
	看護学研究方法論Ⅱ、看護学研究方法論Ⅲ、看護学研究方法論Ⅳ、看護学研究方法論Ⅴ、外国語文献レビュー、看護教育学、看護政策論、臨床解剖生理学、臨床薬理学、臨床診断学	呼吸管理学実習Ⅰ 呼吸管理学実習Ⅱ 呼吸管理学実習Ⅲ 循環管理学実習Ⅰ 循環管理学実習Ⅱ 循環管理学実習Ⅲ 循環管理学実習Ⅳ 外科管理学実習Ⅰ 外科管理学実習Ⅱ 外科管理学実習Ⅲ 外科管理学実習Ⅳ	栄養管理学実習Ⅰ 栄養管理学実習Ⅱ 栄養管理学実習Ⅲ 栄養管理学実習Ⅳ 栄養管理学実習Ⅴ 創傷管理学実習Ⅰ 創傷管理学実習Ⅱ 感染管理学実習 精神疾患管理学実習 疼痛管理学実習	スキルズラボ演習Ⅰ スキルズラボ演習Ⅱ
	共通科目特定行為 選択科目			
	疾病予防学、フィジカルアセスメント、疾病・臨床病態概論、臨床推論Ⅰ、臨床推論Ⅱ、特定行為実践論、特定行為実践演習、診療看護実践論			
	共通科目全領域 必修科目	特定行為領域必修科目	周麻酔期看護実践必修科目	
	看護学研究方法論Ⅰ 看護倫理 看護理論 看護管理学 コンサルテーション論	特定行為看護特論 特定行為看護演習Ⅰ 特定行為看護演習Ⅱ	周麻酔期看護特論 周麻酔期看護演習Ⅰ 周麻酔期看護演習Ⅱ 周麻酔期看護実践Ⅰ 周麻酔期看護実践Ⅱ	
看護管理領域 必修科目				
看護管理特論 看護管理演習Ⅰ				
高度実践コース				
看護管理領域		特定行為領域		
		特定行為実践部門	周麻酔期看護実践部門	

修士課程 授業科目

授業科目	研究コース	高度実践コース (看護管理)	高度実践コース (特定行為)	学年	単位数	学科	学科 コード	領域・分野	領域・分野 コード	科目別 通し番号	水準・難易度	水準・難易度 コード	科目ナンバー
看護学研究方法論Ⅰ	必修	必修	必修	1~2	2	修士	4	全領域	01	001	専門基礎	2	4010012
看護学研究方法論Ⅱ	選択必修	選択	選択必修	1~2	2	修士	4	全領域	01	002	専門基礎	2	4010022
看護学研究方法論Ⅲ	選択必修	選択	選択必修	1~2	2	修士	4	全領域	01	003	専門基礎	2	4010032
看護学研究方法論Ⅳ	必修	選択	選択	1~2	2	修士	4	全領域	01	004	専門基礎	2	4010042
看護学研究方法論Ⅴ	必修	選択	選択	1~2	2	修士	4	全領域	01	005	専門基礎	2	4010052
外国語文献レビュー	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	全領域	01	006	専門基礎	2	4010062
看護理論	選択	必修	選択	1~2	2	修士	4	全領域	01	007	専門基礎	2	4010072
看護倫理	選択	必修	選択	1~2	2	修士	4	全領域	01	008	専門基礎	2	4010082
看護管理学	選択	必修	選択	1~2	2	修士	4	全領域	01	009	専門基礎	2	4010092
コンサルテーション論	選択	必修	選択	1~2	2	修士	4	全領域	01	010	専門基礎	2	4010102
看護教育学	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	全領域	01	011	専門基礎	2	4010112
看護政策論	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	全領域	01	012	専門基礎	2	4010122
臨床解剖生理学	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	全領域	01	013	専門基礎	2	4010132
臨床薬理学	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	全領域	01	014	専門基礎	2	4010142
臨床診断学	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	全領域	01	015	専門基礎	2	4010152
看護学課題実習	選択	—	—	1~2	2	修士	4	全領域	01	016	専門基礎	2	4010162
疾病予防学	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	特定行為領域	02	001	専門基礎	2	4020012
フィジカルアセスメント	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	特定行為領域	02	002	専門基礎	2	4020022
疾病・臨床病態概論	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	特定行為領域	02	003	専門基礎	2	4020032
臨床推論Ⅰ	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	特定行為領域	02	004	専門基礎	2	4020042
臨床推論Ⅱ	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	特定行為領域	02	005	専門基礎	2	4020052
特定行為実践論	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	特定行為領域	02	006	専門基礎	2	4020062
診療看護実践論	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	特定行為領域	02	007	専門基礎	2	4020072
特定行為実践演習	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	特定行為領域	02	008	専門基礎	2	4020082
特定行為実践論Ⅰ	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	特定行為領域	02	009	専門基礎	2	4020092
特定行為実践論Ⅱ	選択	選択	選択	1~2	1	修士	4	特定行為領域	02	010	専門基礎	2	4020102
診療看護実践論	選択	選択	選択	1~2	2	修士	4	特定行為領域	02	011	専門基礎	2	4020112
基礎看護学Ⅰ特論	選択	—	—	1~2	2	修士	4	基礎看護学	03	001	専門応用	3	4030013
基礎看護学Ⅰ演習A	選択	—	—	1~2	1	修士	4	基礎看護学	03	002	専門応用	3	4030023
基礎看護学Ⅰ演習B	選択	—	—	1~2	1	修士	4	基礎看護学	03	003	専門応用	3	4030033
基礎看護学Ⅱ特論	選択	—	—	1~2	2	修士	4	基礎看護学	03	004	専門応用	3	4030043
基礎看護学Ⅱ演習A	選択	—	—	1~2	1	修士	4	基礎看護学	03	005	専門応用	3	4030053
基礎看護学Ⅱ演習B	選択	—	—	1~2	1	修士	4	基礎看護学	03	006	専門応用	3	4030063
基礎看護学Ⅲ特論	選択	—	—	1~2	2	修士	4	基礎看護学	03	007	専門応用	3	4030073
基礎看護学Ⅲ演習A	選択	—	—	1~2	1	修士	4	基礎看護学	03	008	専門応用	3	4030083
基礎看護学Ⅲ演習B	選択	—	—	1~2	1	修士	4	基礎看護学	03	009	専門応用	3	4030093
臨床病態管理学特論	選択	—	—	1~2	2	修士	4	臨床看護学	04	001	専門応用	3	4040013
臨床病態管理学演習A	選択	—	—	1~2	1	修士	4	臨床看護学	04	002	専門応用	3	4040023
臨床病態管理学演習B	選択	—	—	1~2	1	修士	4	臨床看護学	04	003	専門応用	3	4040033
NCD看護学特論	選択	—	—	1~2	2	修士	4	臨床看護学	04	004	専門応用	3	4040043
NCD看護学演習A	選択	—	—	1~2	1	修士	4	臨床看護学	04	005	専門応用	3	4040053
NCD看護学演習B	選択	—	—	1~2	1	修士	4	臨床看護学	04	006	専門応用	3	4040063
老年看護学特論	選択	—	—	1~2	2	修士	4	臨床看護学	04	007	専門応用	3	4040073
老年看護学演習A	選択	—	—	1~2	1	修士	4	臨床看護学	04	008	専門応用	3	4040083
老年看護学演習B	選択	—	—	1~2	1	修士	4	臨床看護学	04	009	専門応用	3	4040093
小児看護学特論	選択	—	—	1~2	2	修士	4	臨床看護学	04	010	専門応用	3	4040103
小児看護学演習A	選択	—	—	1~2	1	修士	4	臨床看護学	04	011	専門応用	3	4040113
小児看護学演習B	選択	—	—	1~2	1	修士	4	臨床看護学	04	012	専門応用	3	4040123
ウイメンズヘルス学特論	選択	—	—	1~2	2	修士	4	臨床看護学	04	013	専門応用	3	4040133
ウイメンズヘルス看護学演習	選択	—	—	1~2	1	修士	4	臨床看護学	04	014	専門応用	3	4040143
周産期看護学演習	選択	—	—	1~2	1	修士	4	臨床看護学	04	015	専門応用	3	4040153
精神看護学特論	選択	—	—	1~2	2	修士	4	臨床看護学	04	016	専門応用	3	4040163
精神看護学演習A	選択	—	—	1~2	1	修士	4	臨床看護学	04	017	専門応用	3	4040173
精神看護学演習B	選択	—	—	1~2	1	修士	4	臨床看護学	04	018	専門応用	3	4040183
地域看護学Ⅰ特論	選択	—	—	1~2	2	修士	4	公衆衛生看護学	05	001	専門応用	3	4050013
地域看護学Ⅰ演習A	選択	—	—	1~2	1	修士	4	公衆衛生看護学	05	002	専門応用	3	4050023
地域看護学Ⅰ演習B	選択	—	—	1~2	1	修士	4	公衆衛生看護学	05	003	専門応用	3	4050033
地域看護学Ⅱ特論	選択	—	—	1~2	2	修士	4	公衆衛生看護学	05	004	専門応用	3	4050043
地域看護学Ⅱ演習A	選択	—	—	1~2	1	修士	4	公衆衛生看護学	05	005	専門応用	3	4050053
地域看護学Ⅱ演習B	選択	—	—	1~2	1	修士	4	公衆衛生看護学	05	006	専門応用	3	4050063
看護管理特論	—	必修	—	1~2	2	修士	4	看護管理	06	001	専門応用	3	4060013
看護管理演習Ⅰ	—	必修	—	1~2	1	修士	4	看護管理	06	002	専門応用	3	4060023
看護管理演習Ⅱ	—	必修	—	1~2	1	修士	4	看護管理	06	003	専門応用	3	4060033
看護実践実習(看護管理実践)	—	必修	—	1~2	6	修士	4	看護管理	06	004	専門応用	3	4060043
呼吸管理学実習Ⅰ	—	—	選択	1~2	1	修士	4	特定行為	07	001	専門応用	3	4070013
呼吸管理学実習Ⅱ	—	—	選択	1~2	4	修士	4	特定行為	07	002	専門応用	3	4070023
呼吸管理学実習Ⅲ	—	—	選択	1~2	1	修士	4	特定行為	07	003	専門応用	3	4070033
循環管理学実習Ⅰ	—	—	選択	1~2	3	修士	4	特定行為	07	004	専門応用	3	4070043
循環管理学実習Ⅱ	—	—	選択	1~2	2	修士	4	特定行為	07	005	専門応用	3	4070053
循環管理学実習Ⅲ	—	—	選択	1~2	2	修士	4	特定行為	07	006	専門応用	3	4070063
循環管理学実習Ⅳ	—	—	選択	1~2	4	修士	4	特定行為	07	007	専門応用	3	4070073
外科管理学実習Ⅰ	—	—	選択	1~2	2	修士	4	特定行為	07	008	専門応用	3	4070083
外科管理学実習Ⅱ	—	—	選択	1~2	2	修士	4	特定行為	07	009	専門応用	3	4070093
外科管理学実習Ⅲ	—	—	選択	1~2	1	修士	4	特定行為	07	010	専門応用	3	4070103
外科管理学実習Ⅳ	—	—	選択	1~2	2	修士	4	特定行為	07	011	専門応用	3	4070113
栄養管理学実習Ⅰ	—	—	選択	1~2	2	修士	4	特定行為	07	012	専門応用	3	4070123
栄養管理学実習Ⅱ	—	—	選択	1~2	3	修士	4	特定行為	07	013	専門応用	3	4070133
栄養管理学実習Ⅲ	—	—	選択	1~2	1	修士	4	特定行為	07	014	専門応用	3	4070143
栄養管理学実習Ⅳ	—	—	選択	1~2	2	修士	4	特定行為	07	015	専門応用	3	4070153
栄養管理学実習Ⅴ	—	—	選択	1~2	3	修士	4	特定行為	07	016	専門応用	3	4070163
創傷管理学実習Ⅰ	—	—	選択	1~2	2	修士	4	特定行為	07	017	専門応用	3	4070173
創傷管理学実習Ⅱ	—	—	選択	1~2	1	修士	4	特定行為	07	018	専門応用	3	4070183
感染管理学実習	—	—	選択	1~2	3	修士	4	特定行為	07	019	専門応用	3	4070193
精神疾患管理学実習	—	—	選択	1~2	2	修士	4	特定行為	07	020	専門応用	3	4070203
疼痛管理学実習	—	—	選択	1~2	2	修士	4	特定行為	07	021	専門応用	3	4070213
スキルズラボ演習Ⅰ	—	—	選択	1~2	2	修士	4	特定行為	07	022	専門応用	3	4070223
スキルズラボ演習Ⅱ	—	—	選択	1~2	2	修士	4	特定行為	07	023	専門応用	3	4070233
看護実践演習(特定行為実践)	—	—	必修	1~2	6	修士	4	特定行為	07	024	専門応用	3	4070243

修士課程 授業科目

授業科目	研究コース	高度実践コース (看護管理)	高度実践コース (特定行為)	学年	単位数	学科	学科 コード	領域・分野	領域・分野 コード	科目別 通し番号	水準・難易度	水準・難易度 コード	科目ナンバー
特定行為看護特論	—	—	必修	1~2	2	修士	4	特定行為	07	025	専門応用	3	4070253
特定行為看護演習Ⅰ	—	—	必修	1~2	1	修士	4	特定行為	07	026	専門応用	3	4070263
特定行為看護演習Ⅱ	—	—	必修	1~2	1	修士	4	特定行為	07	027	専門応用	3	4070273
周麻酔期看護特論	—	—	必修	1~2	2	修士	4	特定行為	07	028	専門応用	3	4070283
周麻酔期看護演習Ⅰ	—	—	必修	1~2	1	修士	4	特定行為	07	029	専門応用	3	4070293
周麻酔期看護演習Ⅱ	—	—	必修	1~2	1	修士	4	特定行為	07	030	専門応用	3	4070303
周麻酔期看護実践Ⅰ	—	—	必修	1~2	3	修士	4	特定行為	07	031	専門応用	3	4070313
周麻酔期看護実践Ⅱ	—	—	選択	1~2	1	修士	4	特定行為	07	032	専門応用	3	4070323
周麻酔期看護実践Ⅲ	—	—	選択	1~2	1	修士	4	特定行為	07	033	専門応用	3	4070333
看護学特別研究	必修	—	特別研究	1年後・ 2年通年	10	修士	4	特別研究	08	001	専門応用	3	4080013
看護実践課題研究（看護管理実践）	—	必修	—	1~2	4	修士	4	課題研究	08	002	専門応用	3	4080023
看護実践課題研究（特定行為実践）	—	—	必修	1~2	4	修士	4	課題研究	08	002	専門応用	3	4080023

履修要項

授業科目の履修方法

【研究コース】

共通科目全領域の必修科目 6 単位、選択必修科目 2 単位、当該研究領域の必修科目 4 単位、共通科目全領域の選択必修科目、選択科目並びに他の研究領域の特論から 8 単位以上、看護学特別研究 10 単位の合計 30 単位以上を履修するものとします。

【高度実践コース】

看護管理領域を選択した学生は、共通科目全領域の必須科目 10 単位、当該研究領域の必須科目 10 単位、共通科目全領域の選択科目から 6 単位以上、看護実践課題研究 4 単位の合計 30 単位以上を履修するものとします。

特定行為領域特定行為実践部門を選択した学生は、共通科目全領域の必須科目 2 単位、選択必修 2 単位以上、当該領域専門科目の 6 単位、当該領域特定行為実践の 4 単位、看護実践課題研究 4 単位、共通科目および当該領域専門科目の選択科目から 12 単位以上の合計 30 単位以上を履修するものとします。

ただし、周麻酔期看護実践部門を選択した学生は、当該領域専門科目の 6 単位、当該領域周麻酔期看護実践の必修科目 7 単位、共通科目および当該領域専門科目の選択科目から 34 単位以上必要となり、合計 55 単位以上を履修するものとします。

教育方法の特例

修士課程看護学専攻においては大学院設置基準第 14 条「教育方法の特例」を適用し、有職者が離職することなく修学し、教育・研究指導を受けることが可能になるよう、昼間だけでなく夜間その他特定の時間又は時期に講義・研究指導を行うよう配慮しています。

長期履修制度

修士課程看護学専攻では、職業を有している等の事情によって、標準修業年限（2 年）を超えて一定の期間（3 年）にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを願った者については、審査のうえ、これを許可する制度を設けています。この制度の適用者の授業料総支払額は、標準修業年限による修了者と同額になります。この制度の適用を希望する場合は、合格発表後、入学手続案内で定める期間に申し出てください。

学修成果の評価

1. 各授業科目の評価について、試験及びレポート等、多面的な評価方法により、秀（90 点～100 点）、優（80 点～89 点）、良（70 点～79 点）、可（60 点～69 点）及び不可（60 点未満）の 5 種の評語をもって表わし、秀、優、良、可を合格とし不可を不合格とします。

秀、優、良、可及び不可の評価基準は、次のとおりとします。

- (1) 秀：各授業科目に定める合格基準を達成し、特に優れた成果を修めている。
- (2) 優：各授業科目に定める合格基準を達成し、優れた成果を修めている。
- (3) 良：各授業科目に定める合格基準を達成し、良好な成果を修めている。

- (4) 可：各授業科目に定める合格基準を達成している。
- (5) 不可：各授業科目に定める合格基準を達成しておらず、不合格。

成績評価に係る異議申し立て

1. 成績評価に係る異議は、次のいずれかに該当する場合に限り、申し立てることができます。
 - ア. 成績の誤記入等、明らかに担当教員の誤りであると思われるもの。
 - イ. シラバス等によりあらかじめ周知している成績評価の方法から、明らかに逸脱した評価であると思われるもの。
2. 次のいずれかに該当する場合は、異議を申し立てることはできません。
 - ア. 成績評価の理由や根拠についての異議を含むもの。
 - イ. その他自己都合によるもの。
3. 異議申し立ての手続きは、次のとおりです。
 - ア. 成績評価に係る異議を申し立てようとする者は、当該成績評価が開示された日の翌日から原則として3日以内に、「成績評価に係る異議申立書（様式）」を学生課大学院教育支援係へ提出してください。
 - イ. 異議申し立てへの回答に対して、再度異議を申し立てることはできません。

GPA制度

学生の学修意欲の増進及び学修成果の明確化、並びに教員による学生への学習指導の促進を図り、教育の質の向上を果たすことを目的として、GPA制度を導入しています。

GPAについて

GPAとは、成績の評価に係る5種の評語に対してそれぞれ4～0のGrade Point（成績評価値。以下「GP」という。）を付与し、それをもって計算した各学生の履修科目の成績評価に係るGPの総和を基に算出した、1単位あたりの平均値です。

成績の評価に係る5種の評語に対してそれぞれ付与するGPは、次のとおりとします。

成績評価			GP
素点	評語（和文）	評語（英文）	
90～100点	秀	A ⁺	4
80～89点	優	A	3
70～79点	良	B	2
60～69点	可	C	1
～59点	不可	F	0

論文作成について

修士論文の作成過程で中間発表の場を設け、専攻の領域を越えてきめこまかな指導が受けられるようにしています。

修士論文は、指導教員の指導のもと、計画的に研究を遂行し、倫理審査等の論文作成に必要な手続きを経たうえで、定められた期日までに提出してください。（「学位論文申請の手引き」参照）

修士論文の提出期限は、2年次の1月上旬頃です（変更の可能性あり）。

学位授与

1. 学位の種類は、修士（看護学）とします。
2. 学位は、大学院に2年以上在学し、上記履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および最終試験に合格した者に授与します。

なお、高度実践コースを選択した者に限り、当該修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果をもって修士論文の審査に代えることができます。

また、本学大学院委員会が優れた業績を上げたと認める者については、1年以上の在学期間をもって学位を授与することがあります。

在学期間等について

- ・ 標準修学年限は2年です。但し、長期履修制度適用者は3年となります。
- ・ 在学年限は、一般入学者は4年、社会人入学者は6年までです。
- ・ 休学は通算して2年を超えることはできません。
- ・ 社会人入学以外の者についても、1年次の後期以降であれば、一定の要件を満たすことで在学のまま常勤就労が可能です。詳細は、学生課に相談してください。

休・退学等について

海外留学及び国内留学、また、休学及び退学等、学籍異動等に係ることについて、関係委員会の承認を得る等の手続きが必要な場合があります。指導教員に相談のうえ、遅くとも希望日の1ヵ月前には届出てください。休学期間は1年以内ですが、1年を限度としてその期間を延長することができます。なお、**休学期間は在学期間に算入されません。**

在学期間の特例について

本学大学院学則第21条に定める修士課程の修了要件のうち、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるとされています。この具体的な取扱いについては、33頁を確認してください。

学生証について

19時以降の校舎への入構及び附属図書館や研究施設を利用の際に必要となります。(本学職員の場合は、職員証で入構してください。)

破損・紛失等による交換は有料です。学生課窓口にて手続きを行ってください。

特定行為領域「特定行為実践部門」「周麻酔期看護実践部門」について

看護の実践領域での特定行為を担い得る卓越した知識と技術を有する高度実践を行う看護師を育成し、専門領域の役割モデルとなること、さらに専門性を高め、臨床看護の発展に寄与することを目指し、平成31年4月に開設しました。令和3年度からは特定行為の全21区分を開講します。

この特定行為領域では、大学院修士課程在学中に厚生労働省の定める特定行為研修が受講でき、最短1年で特定行為研修修了証書が、最短2年で修士の学位が授与されます。

「特定行為実践部門」は、共通科目と区分別科目を1区分以上を履修します。また、「周麻酔期看護実践部門」は、共通科目と区分別科目7区分を含めて総取得単位数55単位以上（最大58単位まで）を修得します。「特定行為実践部門」では30単位以上（履修する特定行為区分により最大35単位まで）を修得します。

専門領域での、より高度な看護実践を目指している方を歓迎いたします。

履修定員：4名程度

特定行為実践部門（指導教員：相見良成、佐々木雅也、遠藤善裕、宮松直美、河村奈美子、桑田弘美、立岡弓子、喜多伸幸、伊藤美樹子、荻田美穂子）

周麻酔期看護実践部門（指導教員：遠藤 善裕）

【履修可能な特定行為区分】21区分

- | | |
|---------------------------------------|----------------------|
| ① 呼吸器（気道確保に係るもの）関連 | ② 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 |
| ③ 呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連 | ④ 循環器関連 |
| ⑤ 心嚢ドレーン管理関連 | ⑥ 胸腔ドレーン管理関連 |
| ⑦ 腹腔ドレーン管理関連 | ⑧ ろう孔管理関連 |
| ⑨ 栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連 [t1] | |
| ⑩ 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連 | |
| ⑪ 創傷管理関連 | ⑫ 創部ドレーン管理関連 |
| ⑬ 動脈血液ガス分析関連 | ⑭ 透析管理関連 |
| ⑮ 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 | ⑯ 感染に係る薬剤投与関連 |
| ⑰ 血糖コントロールに係る薬剤投与関連 | ⑱ 術後疼痛管理関連 |
| ⑲ 循環動態に係る薬剤投与関連 | ⑳ 精神および神経症状に係る薬剤投与関連 |
| ㉑ 皮膚損傷に係る薬剤投与関連 | |

特定行為実践部門履修者：共通科目に加え、特定行為区分①～㉑のなかで1つ以上を選択。

周麻酔期看護実践部門履修者：共通科目に加えて、特定行為区分①②③⑬⑮⑱⑲を推奨、他選択可能。

入学時に特定行為研修に必要科目を選択し、1年次に履修します。選択は、原則、途中で変更できません。また、特定行為区分毎の定員枠、急性期、慢性期の組み合わせにより、選択できない区分もあります。（新型コロナウイルス感染症の拡大によっては、実習形式を変更する可能性があります。）

履修要件

修士課程の出願資格に加えて、以下の特定行為研修受講資格を満たしていることが必要です。

- 1) 保健師、助産師又は看護師の免許を有すること。
- 2) 保健師、助産師又は看護師の資格取得後、通算5年以上の実務経験を有すること。
そのうち通算3年以上は関連する領域の実務経験を有することが望ましい。
- 3) 原則、所属する機関の施設長又は所属長の推薦を有すること。
- 4) 所属施設での臨地実習を行うことができること。

* 高度実践コース（特定行為領域）は、特定行為研修の履修に関する事前相談が必要です。所属施設での臨地実習を行うには一定の要件があるため、下記の相談窓口（電話・メール）までご連絡ください。

必要書類及び提出期間：

- | | |
|------------------------|-------------|
| 1) 特定行為研修標準コース履修申請書類 | 2/19 ～ 2/22 |
| 2) 出願資格審査（専門学校等の卒業者のみ） | 2/19 ～ 2/22 |
| 3) 出願書類 | 3/ 1 ～ 3/ 3 |

出願書類等の提出先：5ページの「出願手続2の照会先」と同じです。

厚生労働省 HP：看護師の特定行為に係る研修制度

特定行為区分について <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077098.html>

相談窓口：麻酔学講座／担当：北川 裕利

hqanes@belle.shiga-med.ac.jp TEL 077-548-2281

看護師特定行為研修センターHP <http://www.shiga-med.ac.jp/~tokutei/index.html>

授業科目及び単位数表

看護学専攻 研究コース 高度実践コース

	研究領域/部門	授 業 科 目	授業を行 う年次	単位数			選択・必修			
				講義	演習	実習	研究コース	高度実践コース		
								看護管理	特定行為	
共通科目	全領域	看護学研究方法論Ⅰ	1～2	2			必修	必修	必修	
		看護学研究方法論Ⅱ	1～2	2			選択必修	選択	選択必修	
		看護学研究方法論Ⅲ	1～2	2			選択必修	選択	選択必修	
		看護学研究方法論Ⅳ	1～2	2			必修	選択	選択	
		看護学研究方法論Ⅴ	1		2		必修	選択	選択	
		外国語文献レビュー	1	2			選択	選択	選択	
		看護理論	1～2	2			選択	必修	選択	
		看護倫理	1～2	2			選択	必修	選択	
		看護管理学	1～2	2			選択	必修	選択	
		コンサルテーション論	1～2	2			選択	必修	選択	
		看護教育学	1～2	2			選択	選択	選択	
		看護政策論	1～2	2			選択	選択	選択	
		臨床解剖生理学	1～2	2			選択	選択	選択	
		臨床薬理学	1	2			選択	選択	選択	
		臨床診断学	1	2			選択	選択	選択	
		看護学課題実習	1		2		選択	-	-	
	特定行為	疾病予防学	1～2	2			選択	選択	選択	
		フィジカルアセスメント	1～2	2			選択	選択	選択	
		疾病・臨床病態概論	1～2	2			選択	選択	選択	
		臨床推論Ⅰ	1～2	2			選択	選択	選択	
臨床推論Ⅱ		1～2	2			選択	選択	選択		
特定行為実践論		1～2	2			選択	選択	選択		
特定行為実践演習		1～2		1		選択	選択	選択		
診療看護実践論		1～2	2			選択	選択	選択		
研究コース	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	基礎看護学Ⅰ特論	1	2			必修・選択	-	-
			基礎看護学Ⅰ演習A	1		1		必修	-	-
			基礎看護学Ⅰ演習B	2		1		必修	-	-
		基礎看護学Ⅱ	基礎看護学Ⅱ特論	1	2			必修・選択	-	-
			基礎看護学Ⅱ演習A	1		1		必修	-	-
			基礎看護学Ⅱ演習B	2		1		必修	-	-
	基礎看護学Ⅲ	基礎看護学Ⅲ特論	1	2			必修・選択	-	-	
		基礎看護学Ⅲ演習A	1		1		必修	-	-	
		基礎看護学Ⅲ演習B	2		1		必修	-	-	
	成人看護学	成人看護学Ⅰ	臨床病態管理学特論	1	2			必修・選択	-	-
			臨床病態管理学演習A	1		1		必修	-	-
			臨床病態管理学演習B	2		1		必修	-	-
		成人看護学Ⅱ	NCD看護学特論	1	2			必修・選択	-	-
			NCD看護学演習A	1		1		必修	-	-
			NCD看護学演習B	2		1		必修	-	-
	老年看護学	老年看護学特論	1	2			必修・選択	-	-	
		老年看護学演習A	1		1		必修	-	-	
		老年看護学演習B	2		1		必修	-	-	
	小児看護学	小児看護学特論	1	2			必修・選択	-	-	
		小児看護学演習A	1		1		必修	-	-	
		小児看護学演習B	2		1		必修	-	-	
	ウイメンズヘルス看護学	ウイメンズヘルス学特論	1	2			必修・選択	-	-	
		ウイメンズヘルス看護学演習	1		1		必修	-	-	
		周産期看護学演習	2		1		必修	-	-	
精神看護学	精神看護学特論	1	2			必修・選択	-	-		
	精神看護学演習A	1		1		必修	-	-		
	精神看護学演習B	2		1		必修	-	-		

	研究領域/部門		授業科目	授業を行う年次	単位数			選択・必修		
					講義	演習	実習	研究コース	高度実践コース	
									看護管理	特定行為
研究コース	看護学 公衆衛生	地域看護学 I	地域看護学 I 特論	1	2		必修・選択	-	-	
			地域看護学 I 演習 A	1		1	必修	-	-	
			地域看護学 I 演習 B	2		1	必修	-	-	
	地域看護学 II	地域看護学 II 特論	1	2		必修・選択	-	-		
		地域看護学 II 演習 A	1		1	必修	-	-		
		地域看護学 II 演習 B	2		1	必修	-	-		
高度実践コース	看護管理領域	看護管理実践	看護管理特論	1~2	2		-	必修	-	
			看護管理演習 I	1~2		1	-	必修	-	
			看護管理演習 II	1~2		1	-	必修	-	
			看護実践実習 (看護管理実践)	1~2			6	-	必修	-
	特定行為領域	専門科目	呼吸管理学実習 I	1~2			1	-	-	選択
			呼吸管理学実習 II	1~2			4	-	-	選択
			呼吸管理学実習 III	1~2			1	-	-	選択
			循環管理学実習 I	1~2			3	-	-	選択
			循環管理学実習 II	1~2			2	-	-	選択
			循環管理学実習 III	1~2			2	-	-	選択
			循環管理学実習 IV	1~2			4	-	-	選択
			外科管理学実習 I	1~2			2	-	-	選択
			外科管理学実習 II	1~2			2	-	-	選択
			外科管理学実習 III	1~2			1	-	-	選択
			外科管理学実習 IV	1~2			2	-	-	選択
			栄養管理学実習 I	1~2			2	-	-	選択
			栄養管理学実習 II	1~2			3	-	-	選択
			栄養管理学実習 III	1~2			1	-	-	選択
			栄養管理学実習 IV	1~2			2	-	-	選択
			栄養管理学実習 V	1~2			3	-	-	選択
			創傷管理学実習 I	1~2			2	-	-	選択
			創傷管理学実習 II	1~2			1	-	-	選択
			感染管理学実習	1~2			3	-	-	選択
			精神疾患管理学実習	1~2			2	-	-	選択
			疼痛管理学実習	1~2			2	-	-	選択
			スキルズラボ演習 I	1~2			2	-	-	選択
			スキルズラボ演習 II	1~2			2	-	-	選択
			看護実践演習 (特定行為実践)	1~2			6	-	-	必修
			特定行為実践	特定行為看護特論	1~2	2		-	-	必修
				特定行為看護演習 I	1~2		1	-	-	必修
	特定行為看護演習 II	1~2			1	-	-	必修		
	周麻酔期看護実践	周麻酔期看護特論	1~2	2		-	-	必修		
		周麻酔期看護演習 I	1~2		1	-	-	必修		
周麻酔期看護演習 II		1~2		1	-	-	必修			
周麻酔期看護実践 I		1~2			3	-	必修			
周麻酔期看護実践 II		1~2			1	-	選択			
周麻酔期看護実践 III		1~2			1	-	選択			
研究コース	看護学特別研究	1~2			10		必修	-		
高度実践コース	看護実践課題研究 (看護管理実践)	1~2			4		-	必修	-	
	〃 (特定行為実践)	1~2			4		-	-	必修	

授 業 科 目 及 び 単 位 数 表

【研究コース】

		修得単位数			備 考
		必修	選択必修	選択	
共通科目	全領域	6単位	2単位	8単位以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通科目（全領域）から必修6単位 ・ 共通科目（全領域）から選択必修2単位 ・ 共通科目（全領域・特定行為）及びコース科目（うち、各部門の特論）から選択8単位以上 ・ コース科目から所属部門の授業科目必修4単位
	特定行為	—	—		
コース科目		4単位	—		
看護学特別研究		10単位	—		
合 計		30単位以上			

【高度実践コース—看護管理領域】

		修得単位数			備 考
		必修	選択必修	選択	
共通科目	全領域	10単位	—	6単位以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通科目（全領域）から必修10単位 ・ 共通科目（全領域・特定行為）から選択6単位以上 ・ 看護管理領域から必修10単位
	特定行為	—	—		
看護管理領域	看護管理実践部門	10単位	—	—	
看護実践課題研究（看護管理実践）		4単位	—	—	
合 計		30単位以上			

【高度実践コース—特定行為領域（特定行為実践部門）】

		修得単位数			備 考
		必修	選択必修	選択	
共通科目	全領域	6単位	2単位	複数選択可	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通科目（全領域）から必修6単位、選択必修2単位 ・ 共通科目（特定行為）から必修8単位 ・ 特定行為領域（専門科目）から必修6単位 ・ 特定行為領域（特定行為実践）から必修4単位
	特定行為	8単位	—		
特定行為領域	専門科目	6単位	—	10単位まで	
	特定行為実践	4単位	—		
看護実践課題研究		4単位	—	—	
合 計		30単位以上			

【高度実践コース—特定行為領域（周麻酔期看護実践部門）】

		修得単位数			備 考
		必修	選択必修	選択	
共通科目	全領域	6単位	2単位	2単位以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通科目（全領域）から必修6単位、選択必修2単位 ・ 共通科目（特定行為）から必修8単位 ・ 特定行為領域（専門科目）から必修6単位 ・ 特定行為領域（周麻酔期看護実践）から必修7単位
	特定行為	8単位	—		
特定行為領域	専門科目	6単位	—	20単位まで	
	周麻酔期看護実践	7単位	—		
看護実践課題研究		4単位	—	—	
合 計		55単位以上（学位取得は30単位以上）			

教員の主な研究内容等

(令和4年5月1日現在)

研究領域	部門名	職名	氏名	主な研究内容
基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	教授	笠原 聡子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の質・安全に関する研究 2. ヘルスケアプロセスの可視化と評価・改善に関する研究 3. 看護人材の育成と管理に関する研究 4. 組織・個人におけるストレスマネジメントに関する研究 5. 医療の需給バランスに関する研究
		准教授	玉木 朋子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護教育に関する研究 2. シミュレーション教育に関する研究 3. EOL ステージにあるがん患者、高齢者の QOL に資する研究
		講師	山下 敬	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術に関する研究 2. 男性看護師/男子看護学生に関する研究 3. ICT を用いた看護学教育に関する研究
	基礎看護学Ⅱ	教授	相見 良成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖生理学の教育に関する研究 2. 看護領域の英語の教育・学習法の開発
	基礎看護学Ⅲ	教授	佐々木 雅也	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種疾患の栄養状態とアウトカムに関する臨床研究 2. エネルギー代謝に関する臨床研究 3. 炎症性腸疾患に関する研究 4. 経腸栄養に関する臨床研究 5. チーム医療のアウトカム評価
臨床看護学	成人看護学Ⅱ	教授	宮松 直美	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の健康障害と生活環境要因に関する疫学研究 2. 循環器疾患の発症および再発予防に関する研究 3. 非感染性疾患 (NCD) の啓発および療養指導方略の開発と効果検証
	老年看護学	准教授	荻田 美穂子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者のフレイル・要介護予防に関する疫学研究 2. 高齢者の在宅療養移行支援に関する研究 3. 脳神経疾患患者の歩行障害・転倒に関する研究

研究領域	部門名	職名	氏名	主な研究内容
臨床看護学	小児看護学	教授	桑田弘美	<ol style="list-style-type: none"> 1. 難病（特に希少難病）や障害をもつ子どもの在宅ケアへの支援に関する研究 2. 子どもの健康の保持、増進する親の育児に関する研究 3. 難病や障害をもつ子どもの学校教育に関する研究
	ウイメンズヘルス看護学	教授	立岡弓子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳房ケアのエビデンス 2. 授乳ケア用品の実装開発に関する研究 3. 性暴力に関する研究 4. 分娩予測指標の開発 5. ジェンダーと女性の健康
		教授	喜多伸幸	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産科危機的出血の診断・治療（産科DICを含む） 2. アイ・トラッキング法を用いた新しい医学技術の伝承方法の開発
		講師	土川祥	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性と社会医学 2. 分娩後の骨盤底弛緩に関する研究 3. 妊娠期のメンタルヘルスについての研究 4. 周産期医療における代替医療の効果の検証
	精神看護学	教授	河村奈美子	<ol style="list-style-type: none"> 1. こころの健康に関する研究 2. 精神看護技術教育に関する研究 3. 患者-看護師関係・コミュニケーションに関する研究 4. 発達障害をもつ対象者と家族の看護支援に関する研究 5. 精神疾患を持つ対象者の看護に関する研究
公衆衛生看護学	地域看護学 I	教授	伊藤美樹子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 要介護高齢者と介護家族の共生に関する研究 2. 生老病死と QOL、有効なライフスキルに関する研究 3. 地域包括ケアシステムに関する研究 4. 主観的健康に関する研究
		講師	興水めぐみ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族に関する研究 2. 訪問看護師のキャリア形成に関する研究 3. 新卒訪問看護師の支援に関する研究
	地域看護学 II	教授	辻村真由子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護 2. 在宅ケアにおける家族支援 3. 在宅ケア専門職の学習支援 4. 地域包括ケアにおける看護職の役割と多職種連携 5. 在宅ケアにおけるテクノロジーの活用

領域	授 業 科 目	概 要
共通科目（全領域）	看護学研究方法論Ⅰ	看護研究の基本原則と必要なスキルを習得し、修士論文の基本的構想を組み立てる能力の獲得を養う。
	看護学研究方法論Ⅱ	質的研究の基本的な考え方と研究方法について学ぶとともに、実際にデータ収集や分析を経験し、学修を深める。
	看護学研究方法論Ⅲ	疫学の基本的な考え方と研究方法、および必要な統計手法について学び、エビデンス構築のための看護学研究遂行に必要な知識・技術を身につける。
	看護学研究方法論Ⅳ	論文の系統的レビューに必要な知識・技術の習得と、論文を精読するためのクリティカル・シンキング能力を養う。
	看護学研究方法論Ⅴ	エビデンス構築のために必要とされる研究手法および研究成果のまとめ方を学習する。
	外国語文献レビュー	データベースを実際に用いて各受講者の研究テーマに関する文献を検索し、内容を把握する。
	看護理論	1) 看護学・看護学研究における理論・概念の開発についてその意義を踏まえ、既存の理論・概念の分析を試みる。 2) 自らの関心領域や看護実践について諸理論を用いて探究する。
	看護倫理	生命倫理学を中心とした倫理学の理論的概要を学び、看護職としての倫理の意味を探究する。また医療現場における倫理的問題を提示し、解決方法を検討する。
	看護管理学	今日の保健医療福祉における看護の役割を確認し、医療安全と質の向上を図り、効率的・効果的な看護サービスを提供していくための組織と看護管理の在り方を学ぶ。
	コンサルテーション論	看護師の重要な役割であるコンサルテーションに関して、関連する理論や技術について、実際にロールプレイや事例を分析しながら学ぶことにより、個人及び組織のコンサルテーションの基本的能力を実践的に養う。
	看護教育学	看護基礎・卒後・継続教育について、諸外国との比較により、我が国の特徴を考察する。また、看護学を学ぶ学生や看護実践を行う看護職者への教育展開方法やアウトカム評価について学ぶ。
	看護政策論	わが国におけるこれまでの看護行政を、1) 看護に関する重要な政策は、当時の福祉・医療政策のなかになかになかのように位置づけられればよいのか、またどのような社会的背景を持っていたのか、2) その政策決定過程にはどのような agent たちがどのように関わっているのか、という二つの視点から考察する。
臨床解剖生理学	形態学・生理学の正しい知識に基づいて、生体レベルでの正常と異常、病態や疾病を学習し、理解することにより、臨床における看護実践への基礎的能力を養うことを目指す。	

※一部、開講しない科目もあります。

領域	授 業 科 目	概 要
共通科目（全領域）	臨床薬理学	看護の実践において必要と考えられる薬理学の知識につき学習し、高度のケアの実践に活かす能力を獲得することを目的とする。
	臨床診断学	ストーマケア、創傷ケア、失禁ケアをはじめ、医療の各分野では、看護職員の積極的な介入のニーズが多く、エキスパートとしての活躍が期待されている。そのために、病態の理解をさらに深め、フィジカルアセスメントより進んだフィジカルイクザミネーションを含む臨床診断学について学ぶ。
	看護学課題実習	看護実践の場における複雑な実践上の課題について、より専門的な視点を持ち、看護現象をデータ化し、分析する過程を経験することにより、看護実践上の課題について科学的に追究する力を培う。
共通科目（特定行為）	疾病予防学	主要疾患の発症および進展の危険因子を理解し、予防のための介入方法を学ぶ。また、危険因子や介入効果の評価方法およびこれらに関するエビデンスを理解する能力を養う。
	フィジカルアセスメント	小児から高齢者、在宅から救急医療までの幅広い領域において、健康問題を有する対象の身体状況を把握し、臨床看護判断を行うために必要な身体診断・診断学の基礎知識や手技について学ぶ。適切な報告、アセスメントに必要な基礎能力を養う。
	疾病・臨床病態概論	主要疾患（5疾病）及び、臨床の場で多い疾患、年齢や状況に応じた特性も踏まえ、疾病や病態機序、臨床診断、治療について学ぶ。
	臨床推論Ⅰ	診療のプロセスで必要となる臨床推論の理論、医療面接、臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学の基礎を学び、医学の診方や思考プロセスを看護実践（特定行為）に取り入れ、応用する力を養う。
	臨床推論Ⅱ	患者に対する医療面接、診察、検査等の情報を収集し、起こっている現象を医学的に捉え、その病態を診断するまでの思考過程を学ぶ。特に鑑別診断に必要な病態生理、臨床的特徴などの医学的知識を実例の中で積み上げる。
	特定行為実践論	多様な場面において特定行為実践に必要な多職種協働実践、関連法規を踏まえ、特定行為の手順書作成や改良する方法を習得する。さらに特定看護師や専門看護師の活動を参考に、臨床に則した意思決定支援や調整、特定行為の実践過程の構造を学ぶ。
	特定行為実践演習	根拠に基づいて手順書を作成し、評価し、見直すプロセスについて学ぶ。また、特定行為に必要なインフォームドコンセントや自身のフィールドで、特定行為を行うメリットや活動計画を示し、グループディスカッションを行う。
診療看護実践論	諸外国での診療看護師育成および活動の変遷を学び、本邦における診療看護師が担う役割と業務、関連法規について理解する。また、各専門領域の診療看護師に求められる能力や役割、診療看護師の活動の評価方法について、討論を通して学ぶ。	

※一部、開講しない科目もあります。

領域	授業科目	概要
基礎看護学	基礎看護学Ⅰ特論	基礎看護学領域のテーマ(技術・教育)の基礎となる理論を概観し、看護技術と看護教育の発展過程について理解し、この領域における課題を明確にする。
	基礎看護学Ⅰ演習A	基礎看護領域に関連する研究論文のクリティークを中心に、看護技術と教育の現状と課題を明かにし自己の課題を明確にする。
	基礎看護学Ⅰ演習B	基礎看護学Ⅰ特論に基づき、基礎看護学領域における国内外の研究を概観し、看護実践上の課題を明らかにし、その解決のための方略を検討する。
	基礎看護学Ⅱ特論	上級看護を実践するために、組織化学法や機能解剖学を学習し、それを通じて人体の構造と生理機能について理解し看護実践に役立てる。
	基礎看護学Ⅱ演習A	実際の組織・臓器標本や解剖体に触れ、生体の構造と生理機能のアセスメントを科学的、客観的に行う力を養成する。
	基礎看護学Ⅱ演習B	生体の構造と生理機能に対する科学的、客観的アセスメントを身につけ上級看護の実践のために活用することを目指す。
	基礎看護学Ⅲ特論	看護師として栄養管理に関わるために必要な臨床栄養学を学び、栄養代謝病態の基本と栄養管理の実践法を理解する。
	基礎看護学Ⅲ演習A	高精度体組成分析装置や間接熱量計を用いた栄養評価など、様々な栄養指標を用いた栄養アセスメントを行い、その意義について理解する。
	基礎看護学Ⅲ演習B	基礎看護学Ⅲ特論と基礎看護学Ⅲ演習Aにおける学習から研究課題を見だし、基礎看護学Ⅲ領域の様々な研究手法について検討し、上級看護の実践に活用する。
臨床看護学	臨床病態管理学特論	がん看護を研究・実践するにあたり、基礎となる、がんの疫学、がんの発生、病態生理、診断、治療などに関する最新の知識習得を目指す。
	臨床病態管理学演習A	がん看護をはじめ成人看護をすすめるにあたり、臨床実践ならびに看護研究における、最新の手法を習得する。
	臨床病態管理学演習B	国内外の文献検討を含め、成人看護における各自の興味ある分野での、具体的かつ研究的視点から検討をすすめる。
	NCD看護学特論	生活習慣病の予防と管理に関する国内外の知見から、各領域での研究課題を見いだす。
	NCD看護学演習A	国内外の文献レビューをもとにした討論を通じて、生活習慣病の管理における看護職の役割の現状と方向性に関しての自己の考え方を明確にする。
	NCD看護学演習B	慢性疾患と共に生活している人に対して質の高いケアを提供するため、看護実践の分析と評価のあり方を検討し、支援システムのあり方を探求する。

※一部、開講しない科目もあります。

領域	授 業 科 目	概 要
臨 床 看 護 学	老年看護学特論	高齢化の国際的動向や我が国の保健福祉政策の動向、高齢者の健康問題(フレイル・要介護状態・老年症候群等)に関する研究動向を理解し、高齢者分野における臨床課題および研究課題を見いだす。
	老年看護学演習A	高齢者の健康と生活を評価するために重要と思われる主要概念と理論、評価尺度を理解する。また、これまでに明らかにされている高齢者に関する研究成果より高齢者の健康寿命の延長を目的としたケアの現状を把握する。
	老年看護学演習B	高齢者のフレイルや要介護予防、生活の質向上に関する知見を踏まえ、高齢者の特性に応じた効果的な実践と研究のあり方を探求する。
	小児看護学特論	様々な状況にある子どもと家族について学び、子どもと親を多角的に理解・アセスメントするための基盤を作る。
	小児看護学演習A	発達理論、セルフケア理論を中核に、子どもと親が内包する健康問題に対して理論を活用したケアの実際とその評価について探究する。
	小児看護学演習B	難病あるいは障害をもつ子どもと家族が抱える問題と在宅ケアにおける看護上の課題について演習を通して学び考察する。
	ウイメンズヘルス学特論	ライフサイクル理論からヒトの身体発達・精神発達を包括的にアセスメントし、性差医療からみた女性の健康にむけた看護実践について考察する。
	ウイメンズヘルス看護学演習	ウイメンズヘルスとそれを取りまく健康課題について、これまで取り組まれてきた研究成果について探究する。
	周産期看護学演習	国外のリプロダクティブヘルス・ライツに関するトピックの学習を通して、グローバルな視点から女性の性や生殖に関する健康や権利に与える諸要因を考察する。
	精神看護学特論	あらゆる世代の心の健康に関する問題について社会心理的側面から理解し、エビデンスに基づいた専門的な介入を実践するための基盤となる理論や概念、モデルの基本的知識を習得する。また対象者の心理社会的理論、自我構造の理解のモデルを活用してアセスメントし、看護援助方法について検討することや看護実践を深く振り返ることにより精神看護の専門的な知識・技術を習得する。
	精神看護学演習A	精神科治療に必要とされる専門的な治療技法や看護介入方法、さらに精神科医療における身体療法や精神療法、心理社会的療法の内容と適用について理解を深めるとともに、対象者との治療的関係の確立に向けた看護の役割を検討し必要な知識・技術を習得する。
精神看護学演習B	心の健康をあつかう複雑なケースに対する看護について、多職種連携、ケースマネジメントやコンサルテーションの視点を含め多角的に分析・検討し、専門性の高い看護実践について探求する。	

※一部、開講しない科目もあります。

領域	授 業 科 目	概 要
公衆衛生看護学	地域看護学Ⅰ 特論	地域特性をふまえた効果的な健康対策のあり方について、事例分析を通して討議し、資源配分のあり方や医療ケア提供システムについての洞察を深める。
	地域看護学Ⅰ 演習A	公衆衛生看護学領域における対象とその健康課題の特性および支援方法について、系統的に文献検討を行い、公衆衛生看護研究および実践への適用とあり方について探究する。
	地域看護学Ⅰ 演習B	公衆衛生の課題や政策について内外の文献をレビューし、関心のある領域の健康政策の策定の過程や背景となる考え方を理解し健康政策をクリティカルに分析をする視点および方法を探求する。
	地域看護学Ⅱ 特論	在宅療養者と家族のニーズを満たすための看護実践のあり方について、自身の体験や文献の事例を踏まえて論述する。また、日本における在宅医療・在宅ケアおよび地域包括システムの現状を理解した上で、その課題と解決策について、海外の在宅ケアシステムの動向を踏まえて論述する。
	地域看護学Ⅱ 演習A	国内外の訪問看護・在宅ケア領域に関する知識や研究動向、多様な研究方法について学ぶことを通じて、自身の研究課題の焦点化を行う。
	地域看護学Ⅱ 演習B	システマティックレビューに関する基礎的知識を獲得し、自身が設定した訪問看護学領域の研究テーマに関して、スコーピングレビューまたはマッピングを行い、研究計画立案の準備性を高める。

※一部、開講しない科目もあります。

領域	授 業 科 目	概 要
専 門 科 目 （ 看 護 管 理 ）	看護管理特論	看護管理の課題を論理的・科学的に探究するための諸理論や概念を理解し、看護管理領域における課題を明確にする。
	看護管理演習Ⅰ	看護管理に関連した国内外の文献を講読し、看護管理学の専門的な知識を深めるとともに自己の研究課題を採求する。
	看護管理演習Ⅱ	看護管理に関連した諸理論や方法論の学習を深め、看護管理的課題探求の基盤を作るとともに、看護管理実践における課題を明確にし、その解決のための方略を検討する。
	看護実践実習 (看護管理実践)	専門領域の課題にそって看護学の専門実習を行う。
専 門 科 目 （ 特 定 行 為 ）	呼吸管理学実習Ⅰ	経口(経鼻)気管チューブの位置調整を特定行為として安全に行うために必要な知識、判断、確実な手技を習得し、実践する。
	呼吸管理学実習Ⅱ	人工呼吸療法管理(設定変更、鎮静剤投与量、離脱)の調整を特定行為として安全に行うために必要な知識、判断、技術を習得して実践する。
	呼吸管理学実習Ⅲ	気管カニューレの交換を特定行為として安全に行うために必要な知識、判断、確実な手技を習得し、実践する。
	循環管理学実習Ⅰ	一時的ペースメーカー操作と管理、同リード抜去、経皮的心肺補助装置の操作や管理、大動脈内バルーンポンピング離脱時の補助の頻度調整を特定行為として安全に行うために必要な知識、判断、技術を習得し、実践する。
	循環管理学実習Ⅱ	直接動脈穿刺法による採血や橈骨動脈ライン確保を特定行為として安全に行うために必要な知識、判断、確実な手技を習得し、実践する。また、血液ガス分析結果の解釈の理解を深める。
	循環管理学実習Ⅲ	急性血液浄化療法中の患者管理や血液透析器の操作などを特定行為として安全に行うために必要な知識、判断、技術を習得し、実践する。
	循環管理学実習Ⅳ	持続点滴中のカテコラミン、K・Cl・Na、降圧剤、糖質輸液・電解質輸液、利尿剤の調整を特定行為として安全に行うために必要な知識、判断、技術を習得し、実践する。
	外科管理学実習Ⅰ	胸腔ドレーン挿入中の患者管理や低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定や変更、胸腔ドレーン抜去を特定行為として安全に行うために必要な知識、判断、確実な手技を習得し、実践する。
	外科管理学実習Ⅱ	腹腔ドレーン挿入中の患者管理や腹腔ドレーン抜去を特定行為として安全に行うために必要な知識、判断、確実な手技を習得し、実践する。
	外科管理学実習Ⅲ	創部ドレーン挿入中の患者管理や創部ドレーン抜去を特定行為として安全に行うために必要な知識、判断、確実な手技を習得し、実践する。
外科管理学実習Ⅳ	心嚢ドレーン挿入中の患者管理や心嚢ドレーン抜去を特定行為として安全に行うために必要な知識、判断、確実な手技を習得し、実践する。	

※一部、開講しない科目もあります。

領域	授 業 科 目	概 要
専 門 科 目 （ 特 定 行 為 ）	栄養管理学実習Ⅰ	高血糖、低血糖の病態を正しく理解し、血糖コントロールを適切に行うために必要な臨床判断力や実践力を身につける。また、血糖管理における合併症と看護ケアに関する知識・技術を習得する。
	栄養管理学実習Ⅱ	胃瘻や腸瘻などの瘻孔管理を適切に行うために必要な臨床判断力や実践力を身につける。また、胃瘻、腸瘻患者の合併症とその対応、看護ケアに関する知識・技術を習得する。
	栄養管理学実習Ⅲ	栄養に関わるカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）を適切に行うために必要な臨床判断力や実践力を身につける。また、中心静脈カテーテルに関する合併症と看護ケアに関する知識・技術を習得する。
	栄養管理学実習Ⅳ	栄養に関わるカテーテル管理（末梢留置型中心静脈カテーテル PICC 管理）を適切に行うために必要な臨床判断力や実践力を身につける。また、PICC に関する合併症と看護ケアに関する知識・技術を習得する。
	栄養管理学実習Ⅴ	静脈栄養における栄養および水分管理を適切に行うために必要な臨床判断力や実践力を身につける。また、静脈栄養における合併症と看護ケアに関する知識・技術を習得する。
	創傷管理学実習Ⅰ	主要な疾患や病態を学び、褥瘡、慢性創傷の血流のない壊死組織の除去や創傷に対する陰圧閉鎖療法を安全に行うために必要な知識、判断、確実な手技を習得し、実践する。
	創傷管理学実習Ⅱ	皮膚の構造や各種抗がん剤の薬理作用や使用方法、安全な投与方法を学び、血管外漏出したときの症候、診断、対処方法を学び、実践する。
	感染管理学実習	感染管理と治療の基本を学び、感染徴候を有する人に対して薬剤の臨時投与を特定行為としてタイムリーに行うために必要な知識、判断、技術を習得し、実践する。
	精神疾患管理学実習	精神神経薬が必要となる疾患や病態を理解し、特定行為として抗けいれん剤や抗精神病薬、抗不安薬の臨時投与を適切な判断により行うために知識や技術を習得し、実践する。
	疼痛管理学実習	術後鎮痛管理の基本を学ぶ。とくに手術直後の不安定な全身状態での鎮痛剤の使用であることを強く意識し、安全で確実な鎮痛処置を行うための知識、判断、技術を習得する。
	スキルズラボ演習Ⅰ	特定行為について事例検討や、シミュレーターや動画教材を使用したトレーニングを行う。
	スキルズラボ演習Ⅱ	外科的基本手技や難易度の高い特定行為を安全に実施するために、シミュレーターを使用した手技練習や動画教材を用いたトレーニングを行う。
	看護実践演習 (特定行為実践)	特定行為を実践する上で、共通して必要となる基本的技術（身体診察手技や医療面接技法、インフォームドコンセント、急変時シミュレーションなど）をロールプレイや事例検討から習得する。また、実践フィールドを看護管理の視点から分析し、活動計画に基づく基盤整備のためのフィールドワークを行う。

※一部、開講しない科目もあります。

領域	授 業 科 目	概 要
特定行為実践	特定行為看護特論	特定行為を担うことを目指す看護師として、専門領域に関する医療の現状を概観し、看護職の役割の方向性に関する自己の考えを明確にする。
	特定行為看護演習Ⅰ	専門領域における実践上の課題を解決するために看護師に求められる技能について文献を本に考察し、臨床実践上の課題を明確にする。
	特定行為看護演習Ⅱ	専門領域において質の高いケアを提供するため、特定行為を含む看護実践の分析と評価の方法を学ぶとともに、ケア提供システムのあり方を探究する。
周麻酔期看護実践	周麻酔期看護特論	周麻酔期看護を取り巻く現状について理解する。また、麻酔科学を核として、周麻酔期の看護ケアで特定行為を実践するために必要な専門知識と技術を習得する。
	周麻酔期看護演習Ⅰ	手術麻酔に必要な知識と技術を多くの症例より学ぶ。特に麻酔科医の思考回路を理解し、患者に寄り添える麻酔看護学を身につける。さらに文献検討により最新の知見を得て、周麻酔期看護の役割と専門性、技術(開発)について探求する。
	周麻酔期看護演習Ⅱ	周麻酔期看護領域に関するテーマを設定し、適切な研究を遂行し、修士論文を完成させる。
	周麻酔期看護実践Ⅰ	特定行為研修を修了した看護師が周麻酔期看護を安全に行うために必要な臨床判断力や実践力を身につける。また、合併症のない全身麻酔事例において、麻酔管理の流れと看護ケアに関する知識・技術を学び、麻酔科指導医の指導のもとで実践し、周麻酔期看護を科学的で安全に実施する能力を培う。
	周麻酔期看護実践Ⅱ	ハイリスク患者・緊急手術患者の疾患や病態について学び、周麻酔期看護を実践するために必要な知識を理解する。また、周麻酔期看護学を取り巻く現状について理解し、チーム医療の中心としての役割を実践できる。
	周麻酔期看護実践Ⅲ	術前評価、術中管理、術後の集中治療、緩和ケア、ペインクリニック等を周術期の流れとして理解し、シームレスな看護実践ができるよう必要な知識を習得し実践できる。
看護学特別研究	課題を明確化し、適切な研究方法により研究を進め、その成果を修士論文にまとめる。これらの過程を通じて、看護学研究の遂行に必要な倫理観や態度、知識、技術を身につけ、将来自立して研究活動を行うための基礎的能力を培う。	
看護実践課題研究	専門領域に関する詳細な文献検討から臨床実践上の課題を明確にし、看護と医療の質向上に寄与しうる実践的研究を行う。	

※一部、開講しない科目もあります。

修士課程研究指導の方法及び内容

以下の研究指導計画を進められるように指導教員が研究指導を行います。

1. 2年間を通して、各領域の基礎および専門となる勉強をします。履修案内を参考に指導教員と相談のうえ、授業科目を決定します。
2. 第1学年前期においては、指導教員が作成した研究指導計画書を確認し、研究テーマに適した研究方法の決定を行います。
3. 後期になると、研究指導計画書に基づきデータの収集等の準備を行います。倫理委員会に諮る必要のある場合は申請をします。
4. 中間発表会として「研究デザイン発表会」が実施されますので、発表できるように準備をします。発表会での質疑及び助言を参考とし、必要に応じて研究指導計画書の点検、修正をします。

学位論文（修士）審査に係る日程について

第1学年

第1学年後期に中間発表として「研究デザイン発表会」を実施する。
(1人あたり発表15分、質疑応答15分)



[質疑及び助言を参考とし、必要に応じて研究指導計画書を修正する。]



第2学年

12月 修士論文題目の提出
(指導教員の承認を得て学生課大学院教育支援係まで)



1月 修士論文提出締め切り
(指導教員の承認を得て学生課大学院教育支援係まで)



2月 研究発表会の公示及び通知

研究発表会・最終試験開催（看護第1講義室）
(発表：1人あたり20分、口頭試問：20分、質疑応答10分)



3月10日（土、日により変更有り）
学位授与式

(備考) 上記は大まかな流れ（予定）を示したものであり、詳細及び変更等については、その都度指導教員又は学生課から連絡します。

なお、7月の修士論文審査の出願についての詳細は、指導教員、該当学生に連絡します。

入学年度	年度	学籍番号	
氏名			
コース・領域			

指導教員	講座名等	
	氏名	
副指導教員	講座名等	
	氏名	
研究題目		
研究指導計画（指導教員記入欄）		
<div style="font-size: 4em; opacity: 0.3; position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); pointer-events: none;"> 見本 </div>		

（裏面へ続く）

1. 学生と指導教員が相談のうえ、作成してください。
2. 研究計画等を記入してください。
3. 指導教員は、作成後の研究指導計画書を学生に明示してください。
4. 作成した計画書は、学生と指導教員がそれぞれ写しを所持し、原本は5月9日までに学生課大学院教育支援係に提出してください。
5. デザイン発表会の時に、記載内容を点検のうえ修正し、学生課大学院教育支援係に提出してください。

見本

大学院医学系研究科（修士課程）における在学期間の特例に関する申合せ

平成21年7月1日

看護学系大学院委員会決定

滋賀医科大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第21条第2項に定める修士課程の修了の要件のうち、在学期間の特例に関する取扱いについては、次によるものとする。

1. 大学院学則第21条第2項ただし書に規定する「優れた研究業績を上げた者」とは、次の要件を満たし、かつ、大学院教育部門会議の審査を経て看護学系大学院委員会が認めた者とする。
2. 「優れた研究業績を上げた者」の要件は、次の各号を全て満たした者とする。
 - (1) 学位論文以外の論文（筆頭著者に限る。）が、権威ある国内外の学術雑誌（紀要、商業誌等は除く。）に掲載、または、掲載を許可され、かつ、その内容が学問的にも価値が特に高いものであること。
 - (2) 所定の単位以上を修得し、その学業成績が優秀であること。
 - (3) 指導教員の推薦があること。
3. 本特例の適用を願い出る者は、学位論文申請に係る書類及び次の該当する書類を学長に提出するものとする。
 - (1) 推薦書（別紙様式） 1部
 - (2) 掲載論文の別刷 20部（原本1部及びその写しを19部）
論文が未公表の場合は、投稿論文の写しを20部
 - (3) 掲載予定証明書（論文が未公表の場合）
4. 本特例の適用が認められた者は、学位論文の提出資格を有するものとする。



